
令和5年度病害虫発生予報第8号（11月）

令和5年10月31日
愛知 県

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	ミカンハダニ	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±

・留意事項

ナシ黒星病は、落葉中で病原菌が越冬し、次作の伝染源となります。発生の多かったほ場では、落葉を園外に持ち出す、粉碎、すき込むなど適切に処分しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ハクサイ	軟腐病	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の降水量は平年並か少ない	± －～±
	べと病	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の降水量は平年並か少ない	± －～±
	アブラムシ類	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量は少ない 11月の気温は高い	－ +
キャベツ	黒腐病	少ない	県全域	10月下旬の発生量は少ない 11月の降水量は平年並か少ない	－ －～±
	菌核病	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の降水量は平年並か少ない	± －～±
ハクサイ キャベツ	コナガ	平年並	県全域	10月下旬の発生量はハクサイほ 場で平年並、キャベツほ場で少な い フェロモントラップにおける誘殺数 は平年並 11月の気温は高い	－～± ± +
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
	黄化葉巻病	平年並	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない 10月下旬のコナジラミ類の発生量 は平年並 11月のコナジラミ類の予想発生量 はやや多い	－ ± +
	コナジラミ類	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の気温は高い	± +
ナス (施設)	うどんこ病	少ない	県全域	10月下旬の発生量は少ない	－
	ミナミキイロ アザミウマ	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量は少ない 11月の気温は高い	－ +
キュウリ (施設)	うどんこ病	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない	－
	べと病	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の日照時間は平年並か多い	± －～±
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の気温は高い	± +
イチゴ (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の気温は高い	± +

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
野菜共通	ハスモンヨトウ	多い	県全域	キャベツほ場における10月下旬の発生量が多い フェロモントラップにおける誘殺数が多い	+
	オオタバコガ	多い	県全域	キャベツほ場における10月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数が多い	+

・防除対策

[トマト（施設）・黄化葉巻病、コナジラミ類]

防虫ネット等で物理的に防除するとともに、サフオイル乳剤等の気門封鎖剤やコルト顆粒水和剤などで防除しましょう。

[キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ]

ベネビアODやアグリメックなどで防除しましょう。

[野菜共通・ハスモンヨトウ]

9月28日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第12号」を参考にしてください。

[野菜共通・オオタバコガ]

10月2日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第13号」を参考にしてください。

・留意事項

トマトキバガ侵入調査用フェロモントラップにおいて、トマトキバガが誘殺されました。詳細は10月23日発表の「令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号」を参照してください。

虫媒伝染性ウイルス病のトマト黄化葉巻病（TYLCV）やトマト黄化病（TOCV）、キュウリ黄化えそ病（MYSV）が発生しているほ場では、発病株を抜き取り適切に処分するとともに、媒介虫（トマト黄化葉巻病はタバココナジラミ、トマト黄化病はコナジラミ類、キュウリ黄化えそ病はミナミキイロアザミウマ）の防除を徹底しましょう。

イチゴ炭疽病の発生量はやや多い状況です。発病を確認したら発病株や隣接する株は速やかに抜き取り、ほ場外で適切に処分しましょう。育苗ほ場で発生があったほ場は、特に注意しましょう。イチゴのハダニ類は多発すると防除が難しくなるので、発生を確認したら、速やかに系統の異なる薬剤でローテーション防除しましょう。

作物

・留意事項

10月下旬のダイズほ場での巡回調査における吸実性カメムシ類の発生量が多い状況です。特に、西尾市、豊田市及び豊川市において、発生が多いほ場が確認されました。子実肥大中期以降の被害は奇形粒、変色粒を引き起こすため、収量、品質の低下につながります。また、成虫はほ場外に好適な食草があれば、子実肥大中期以降にはほ場外へ移動することもあります。幼虫は移動せず、黄熟期まで加害を続けます。吸実性カメムシ類の発生が多いほ場では、収穫前日数に注意し、防除しましょう。9月1日発表の「吸実性カメムシ類情報第1号（ダイズ）」も参考にしてください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台 10月26日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：30% 高い：60%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。